

柏崎刈羽原子力発電所 所長補佐として感じたこと

2022年8月25日
東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所
所長補佐 水谷 良亮

自己紹介

みずたに りょうすけ

水谷 良亮 (1947年 三重県生まれ、75歳)



1970年4月1日 中部電力入社

炉心設計の解析業務を担当

(当時、製作した解析プログラムは現在のプラントでも一部使用)

当直長 など

2005年～14年 取締役専務執行役員浜岡原子力総合事務所長

(9年は歴代最長)

2022年4月1日 東京電力HD入社、柏崎刈羽原子力発電所所長補佐

趣味：ラグビー狂です

2015年のラグビーワールドカップ
ではイングランドまで日本代表を
応援に行きました！



着任時に、まず感じたこと

昨年末に初めて発電所を訪問した際の印象
 ・真面目過ぎて、かえって息がつまる感じ。間違ふことに対して萎縮。明るさがない

4月の着任時の印象
 ・稲垣所長の改革の成果もあり、少しずつ職場に明るさも。でもまだまだ足りない

【土台】 関係性向上の第一歩はあいさつから
あいさつをしない人が多いぞ①

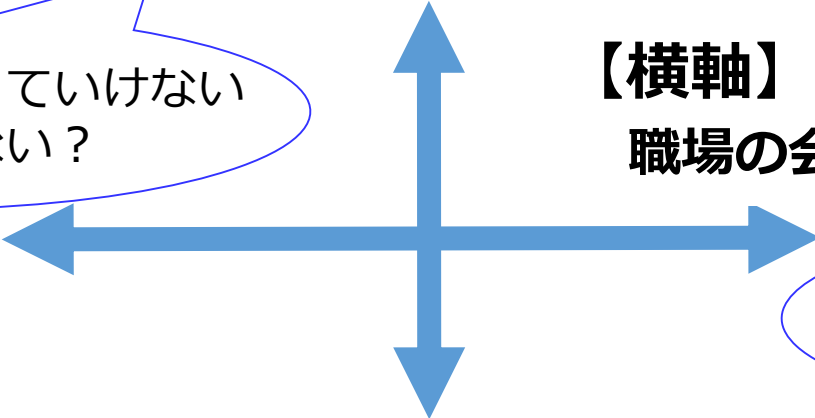
あいさつが返ってこない
目も合わせない!?

【縦軸】 上司と部下の関係性
所員と所長は話ができているのか? ②

所長室は気軽に入っていけない
場所とわかれていない?

【横軸】 部門間・同僚との関係性
職場の会話量が少ないぞ③

なぜ午前中の1時間は、
会話禁止時間!?



①土台：関係性向上の第一歩はあいさつから

あいさつをしない人が多いぞ

- 浜岡原子力発電所と比べてあいさつの少なさに疑問。たかがあいさつではなく、普段からコミュニケーションが取れていれば気軽に声を掛けられる
- それが人間関係も含めてトラブルを未然に防ぐことにつながることから、早速、小早川社長と稲垣所長へあいさつ運動を提案
- 4月下旬より正門やバスロータリーで毎朝、稲垣所長以下であいさつ運動を実施



【変わった感】

- あいさつ運動の輪は広がり、総勢50名が輪番で参加
- 最初はちょこんと頭を下げるだけだった所員や協力企業の方々も、声で返し表情も柔らかな人が増えてきた
- 職場にも少しずつだが着実に活気や笑顔が見え始めている

②縦軸：上司と部下の関係性

所員と所長は話ができているのか？

- 所長室の扉が常に閉じており、所員が声を掛けづらい状態と感じた扉を開放し、外から見える位置に机を置くよう助言
- また、所長自ら現場や事務所を巡回して声を掛けるよう助言
- 所員の萎縮をなくすために「褒める・褒められの輪」が広がるよう支援



【変わった感】

- 所長室の扉を開放することで顔が見え、声もかけやすく。所員の相談機会が増加
- 所長は、わずかな空き時間でも足しげく現場へ足を運び、協力企業を含めコミュニケーション機会が増加
- 所長と私でブログを始め、日々感じたことや日常の出来事を協力企業を含めた所内へ発信
- 発電所長表彰を見直し、表彰者にはプライズマークを贈呈。作業用ヘルメットに貼ることで仲間からも褒められるきっかけに



個々人の作業用ヘルメット

③横軸：部門間・同僚との関係性

職場の会話量が少ないぞ

- 事務所内でのワイガヤとした**会話が少なく**、特に、毎日10～11時が業務集中時間として称して、**私語禁止**となっていることに疑問。むしろ**コミュニケーションタイム**とし、**対話による問題解決を促進**するよう助言
- **部門横断的な対話の場も少ない**と感じた。趣味のラグビーを活かした**コミュニケーションイベント**の企画、いい発電所にするための取組みや、**地域共生活動**などにも積極的に参加し、**部門間の対話を後押し**



【変わった感】

- 事務所内のワイガヤ（声掛け、会話量）が多くなり、**職場の活性化や問題解決に向けた議論が徐々に増加**している様子を感じる
- **部門横断的に対話することが、少しずつ当たり前**のことに。仲間や地域を知ること
で自らの成長や業務にも反映していくことを期待

- ルールなど決められた事をしっかり行う事は大事だが、それだけでは**依存型・受け身の傾向に**
- お互いを「褒めて」、「指摘しあえて」「ともに変えていく」という**好循環**が生まれるようにしたい

そのために私が引き続き取り組むこと

①【土台】

当たり前のことでも馬鹿にせず、皆が**笑顔で当たり前にあいさつができるようになるまで、あいさつ運動をしつこく繰り返し継続する**

②【縦軸】

所員と所長の距離がより縮まるよう所長の目となり耳となり、**気づいた事は遠慮なく所長へ助言し改善を図る。私自身も所員へ働きかける**

③【横軸】

地域との協働イベントなど、**自業務とは異なる場所で、所員同士が横の繋がりを築いていくことを、どんどん後押ししていく**